

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：医学教育部会

部長名：傳 秋光

作成者名：傳 秋光

概要（2000字）

【組織・運営】医学教育部会としては、教養原論として、「生命と環境」の分類に該当するところの「身体の成り立ちと働き」および「健康と病気」の2つの講義を、それぞれ医学部教員（保健学科・医学科）によるオムニバス方式で担当した。それぞれに代表者1名を置き、教科集団構成員の講義内容の調整ならびにカリキュラム・シラバス・授業の改善に関する検討は各教員からの意見を集約し代表者が行なっている点は、従来通りである。なお、以下では、自己点検・評価報告書の各論で評価一括が困難な場合には、個別に記載した。

【講義の概略・目標】

「身体の成り立ちと働き」では、「日常生活を可能とする人体の器官・組織の形態、生体の機能について、場合によっては若干の身近な病気などとも関連づけながら講義する。自分の身体への興味と知識を増やしていただきたい。」とした。

「健康と病気」では、「現代社会でクローズアップされている様々な疾病から代表的な感染症・悪性腫瘍（ガン）・生活習慣病に焦点を当て分かりやすく解説することにより、平素より自己の健康に気を配り、病気に対して正しい知識を持つこと」を目標とした。その病気の罹患・発病のメカニズムを初歩から解説し、各々の疾病に罹患しないための一次予防を中心に予防対策を講義した。医療系の学生には、これから学ぶ医学の知識基盤となることを、医療系以外の学生には一般教養としてだけでなく病気から自分を護る防衛知識として役立てることを目標とする、とした。

【自己点検・評価のまとめ】

- 1) 授業の内容は全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものであり、教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっていて、単位の実質化への配慮もなされていると考えられた。
- 2) しかし、「講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。」という面では、教材としてはコンピュータプレゼンテーション、プリント、ビデオ等様々なメディアを使用して工夫したが、受講者多数であるため、学生個々に対するきめ細かな指導、少人数・対話討論型などの理想的な講義は実施困難であった。「身体の成り立ちと働き」の授業では、TA 制度利用は距離、時間、費用や人数確保面から教員以上に困難さを伴うために、やむなく利用せず、教員自身が資料準備や資料配布を行なったが、出席確認までは行なえなかった。「健康と病気」の授業では、講義の途中での質問の随時受け付け、レジメ配布、TA の活用が極めて有効であった。
- 3) また、「自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。」に関しても、「講義概略はシラバスへ記載されており、講義内容は比較的平易となるように心がけた。また、各担当教員には適切な教科書、参考書を講義中に紹介してもらうなど、自学自習に対する配慮を行なった。これらの点では、学習への配慮はしていると言える。しかし、基礎学力不足の学生への配慮は、そこまで止まりであり、組織的には行なっていない。基礎学力不足問題は、高校教育制度や大学入試制度の多様化に問題があるとも言えるかも知れない。」との部会内部結果であり、その

ような学生には思わしい結果が得られていないと考えられた。

- 4) 「成績評価基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか」については、問題はないと考えられた。
- 5) 教育の成果や効果は、受講者は多数であり、必ずしも全学生が満足するような講義ではないとも思われが、学生の授業評価内容を総合的にみた場合、意識の高揚には役立ったと考えられた。特に、「身体の成り立ちと働き」では、定期試験答案の一部で講義の感想を記述させたが、そのことが良く表れていた。
- 6) 「学習相談、助言（例えば、オフィスアワーの設定、電子メールの活用、担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。」という面では、どちらかと言えば、否定的な評価となった。即ち、講義内容の質問にはその都度に回答するようにしていたが、頻度的には少なく、シラバス等で主担当教員への連絡方法を提示していたために電子メールが有効であったものの、受講学生から試験範囲・日程等の質問以外の学習に関する相談はなかった。なお、担任制度に関しては、対象人数、講義頻度、楠木町・名谷から六甲への距離を考慮した場合、現実には非常に困難であると考えられた。
- 7) 全般としての印象ではあるが、身体の解剖・生理、健康や病気に関心があり、熱心に聴講している学生は多いように思われた。  
成績評価は定期試験で行なったが、講義ごとに重要ポイントを明示しそれらを中心に出題するという方式は従来からの方式であり、設定した到達目標に大部分の学生が達していると考えられた。

様式 2 (続き)

### 項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

- 5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。  
(観点に係る状況)

はい

根拠資料

シラバス

- 5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。  
(観点に係る状況)
- はい

根拠資料

① シラバス（講義はシラバスに沿った内容となっている）。② レジメ（講義前に講義のレジメを配布することを原則としている。配布により、学生の理解を深め、写すことより理解することに集中するように工夫した。）

5-1-⑤： 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

はい

根拠資料

「身体の成り立ちと働き」、「健康と病気」とともに、全ての講義は決められた日時に、単位の実質化への配慮がなされたシラバスの通りに行なわれている。

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況)

はい

根拠資料

1) 「身体の成り立ちと働き」： 大人数の学生を対象とした講義のために、少人数・対話・討論型などの理想的な講義は困難であった。主として、パソコン(パワーポイント)と、その内容のレジメ配布で工夫した。重要点は、特に力を入れて講義した。TA 制度利用は、距離、時間、費用や人数確保面から、教員以上に困難さを伴うために、行なっていない。

2) 「健康と病気」： 100人以上の学生を対象に大講義室で行う講義であるため、少人数性の指導は無理である。しかしながら、全学生の理解度を深めるために講義の途中で質問を随時受け付け、全体としての理解を深めるように配慮した。また、レジメを配付することにより、復習に役立つようにも配慮した。TA の活用により学生と教員の意見交換のがスムーズに行われた。

5-2-③： 自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

(どちらかと言えば) はい

根拠資料

講義概略はシラバスへ記載されており、講義内容は比較的平易となるようにしている。また、各担当教員には必要に応じて適切な教科書、参考書を講義中に紹介してもらうなど、自学自習に対する配慮を行なった。これらの点では学習への配慮はしていると言える。

しかし、基礎学力不足の学生への配慮は、そこまで止まりであり、組織的には行なっていない。基礎学力不足問題は、高校教育制度や入試入学制度(特に、理科の科目の単位取得制度、社会人入学制度など)の多様化に問題があるとも言えるかも知れない。

5-3-②： 成績評価基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

はい

#### 根拠資料

- 1) 「身体の成り立ちと働き」：定期試験において、オムニバス講義の担当者が小問題を作成し、それらを一括して定期試験時に時間内に解答可能となるように配慮。各教員が個別に採点した点数を講義時間数で按分し、通常の判定を行なった。
- 2) 「健康と病気」：成績評価はシラバスに記載の通り、出席数と試験の点数により公平に算出された。またその結果は、優が20%、良が42%、可が25%、不可が13%と特定の評価に偏ることなく標準的な値となっている。

#### 基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

はい

#### 根拠資料

受講者は多数であり、必ずしも全員に満足していただけるような講義とはならないとも思われる。しかし、学生の授業評価内容を総合的にみた場合、健康と病気に関する学生の意識の高揚には役立ったと考えられる。特に、「健康と病気」では、約6割の学生が授業評価に於いて、総合的に有意義或いはどちらかといえば有意義と回答していることから、教育効果が上がっているものと思われる。

#### 基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

(どちらかと言えば)「いいえ」

#### 根拠資料

講義内容の質問にはその都度に回答するようにしていたが、頻度的には少なかった。シラバス等で主担当教員への連絡方法を提示していたが、電子メールが有効であった。しかし、受講学生から試験範囲・日程等の質問以外の、学習に関する相談はなかった。  
なお、担任制度に関しては、対象人数、講義頻度、楠木町・名谷から六甲への距離を考慮した場合、現実には非常に困難であると考えられた。